

「住居医学(I), (II), (III)」

筏 義人 編著

住居医学(I) : 18.6 x 13 x 1.8 cm , 211頁, 1890円(本体1800円+税), 2007年6月
 住居医学(II) : 18.8 x 13 x 0.6 cm , 205頁, 1890円(本体1800円+税), 2008年8月
 住居医学(III) : 18.8 x 12.8 x 1.6 cm , 224頁, 1890円(本体1800円+税), 2009年8月
 米田出版

「住居医学」という言葉はあまり見かけない。奈良県立医科大学に新設された寄附講座で初めて使用された言葉であろう。住居医学について、私自身は、住居における健康と環境の関わりについて医学的に探求する学問領域であると理解している。このような領域は、従来、医学の分野では住居衛生学と呼ばれていた。住居衛生学は、明治前半期より発達してきたが、しだいにこの分野の医学研究者は少なくなっていく。昨今、シックハウス症候群や高齢者の増加など、住居における健康と環境の問題が大きくなり、再びこの分野を探求する医学研究者が少しずつ増えている。

住居における健康と環境の関わりは、化学物質を主な原因とするシックハウス症候群に限らない。むしろシックハウス症候群は、この分野のごく一部の課題でしかない。それ以外にも、アレルギーや喘息、慢性疾患、転倒骨折(バリアフリー)、冷房病、暖房器具による火傷、漏電による電気ショック、高齢者、老い、育児、香りや臭い、癒し、うつや不安などもある。書籍「住居医学」は、住居におけるさまざまな健康と環境の関わりについて、医学を中心とした研究者が分担執筆している。企画編集者は、奈良県立医科大学住居医学講座の筏教授である。2007年に第I巻が出版されて以来、2008年に第II巻、2009年に第III巻が出版された。各巻10人前後の執筆者がそれぞれの専門分野について自由に解説している。衛生学、生理学、解剖学、細菌学などの基礎医学の研究者のみならず、内科学、耳鼻咽喉科学、周産期学などの臨床医学、老年看護学や臨床病態医学などの看護学の研究者も執筆している。

医学研究者以外では、生活科学や環境学などの専門家が執筆している。それぞれの内容はわかりやすく書かれており、この分野の専門家でなくても読みやすい。医学の視点からみる住環境とはどのようなものか、興味がある方には是非おすすめしたい。2010年も第IV巻の出版が予定されている。



(近畿大学医学部 講師 東 賢一)